

【街路編】



## ●街路分野における候補事例の収集

### (1) 候補事例選定の視点

- ・街路分野については、それぞれが異なる機能に特徴を持った施設であることから、明確に分野を区分して整理した。
- ・街路については、線形や断面構成といった「街路本体に関する規範事例」の収集から、街路を構成する「道路構造物（擁壁、掘割り等）」や「道路施設（植栽、舗装等）」、「街並みや沿道施設との関係」等について、工夫している点や景観・デザイン的に優れている点を中心に解説した。
- ・なお、「街路」とは、市街地に整備されている道路として規定した。

### (2) 規範候補（100 事例）の選定

#### ① 選定対象

- ・市街地に整備されている道路（街路）を対象とする。
- ・一般の市民が利用している既存の街路を対象とする。

#### ② 選定の方法

- ・以下の手順で選定作業を行った。
  - 1) 標準設計以前に造られた街路で、優れたデザインあるいはスタンダードなデザインとして既に評価の定まったものを抽出した。
  - 2) 文化財指定（国・都道府県）や近代土木遺産指定がなされているものを抽出した。
  - 3) 標準設計以降に造られたもので、優れたデザインあるいはスタンダードなデザインとして既に評価の定まったものを抽出した。
- ・選定に際しては、下記資料に基づくことを基本とし、その他、参考となる資料や文献等を併せて参照した。

- ・なお、下記の資料以外の優れたデザインあるいはスタンダードなデザインの事例については、専門家等へのヒアリング（本件においては部会での確認）により抽出した。

#### ■選定に用いた資料

- 資料①：『日本の近代土木遺産』（土木学会、2005 年）
- 資料②：国指定文化財等データベース（文化庁HPより）
- 資料③：都道府県の指定文化財（各都道府県のHPより）  
（参考資料：「日本の道 100 選」、「土木学会デザイン賞」等）  
（参考文献：「道・緑・景」（道路緑化保全協会）  
（参考文献：「道路のデザイン」（道路環境研究所）  
（参考文献：「街路の景観設計」（土木学会）等）

### ③ 事例の分類

- ・選定事例について、その特徴をより明確なものとし、候補の絞り込みを行う際の参考とするため、下記に示す観点に基づき区分を行った。

#### 【分類 1：街路の特性による分類】

- ・対象となる街路の景観的に評価すべき特性に着目し、以下の項目による分類を行った。
  - 1) 規模分類：大路、商店街・路地
  - 2) 歴史分類：城下町、宿場等、参道
  - 3) 整備分類：シボルロード、パークウェイ型、公園一体型、沿道規制型
  - 4) 仕組み分類：山当て、アイストップ、立体交差、既存樹活用、並木、花植栽等、坂道、水辺の街路
  - 5) 施設分類（舗装、照明等）
  - 6) 活用分類（休憩、イベント等）

#### 【分類 2：街路の整備された時代背景による区分】

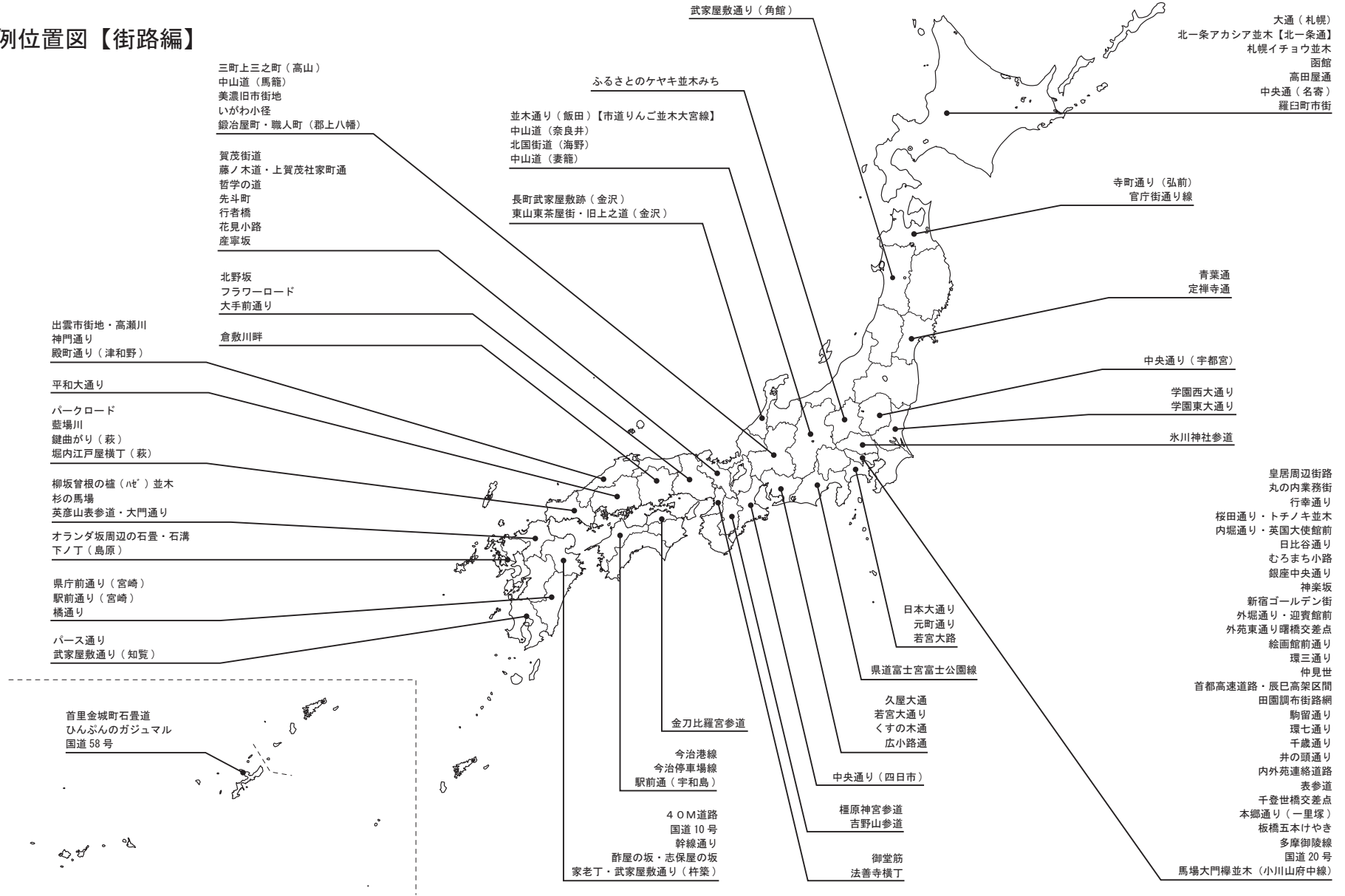
- ・街路の整備された時代背景に着目し、下記の時代による分類を行った。
  - 1) 明治時代以前 ～ 2) 戦前 ～ 3) 戦後 ～ 4) その他

【街路分野】事例分類一覧（太字：景観デザイン規範事例の対象、斜体：コラム的にまとめて紹介する事例対象）

形態分類		年代分類	江戸時代以前	江戸時代	戦前	戦後
規模分類	大 路				<u>御堂筋</u>	40M道路、パース通り、今治港線、今治停車場線、若宮大通り、平和大通り、中央通り(四日市)
	商店街・路地		<u>産寧坂</u> 、 <u>法善寺横丁</u> 、先斗町	いがわ小径	<u>花見小路</u> 、 <u>神楽坂</u> 、女木島集落の石垣路地	<u>元町通り</u> 、むろまち小路、新宿ゴールデン街
歴史分類	城下町		家老丁・武家屋敷通り(杵築)、 <u>下ノ丁(島原)</u> 、鍵曲がり(萩)、堀内江戸屋横丁(萩)、殿町通り(津和野)、東山東茶屋街・旧上之道(金沢)、武家屋敷通り(角館)、 <u>武家屋敷通り(知覧)</u>	酢屋の坂・志保屋の坂、寺町通り(弘前)、鍛冶屋町・職人町(郡上八幡)、杉の馬場		
	宿場等		倉敷川畔、三町上三之町(高山)、 <u>中山道(奈良井)</u> 、 <u>北国街道(海野)</u> 、中山道(妻籠)、中山道(馬籠)、美濃旧市街地、英彦山表参道・大門通り			
	参 道		若宮大路、神門通り、馬場大門櫓並木(小川山府中線)、氷川神社参道、金刀比羅宮参道、吉野山参道	仲見世	多摩御陵線	
整備分類	シンボルロード				中央通り(宇都宮)、県庁前通り(宮崎)、駅前通り(宮崎)	パークロード、 <u>青葉通</u> 、 <u>定禅寺通</u>
	パークウェイ型				<u>絵画館前通り</u> 、 <u>内外苑連絡道路</u> 、 <u>表参道</u>	
	公園一体型				<u>大通(札幌)</u> 、 <u>檀原神宮参道</u>	久屋大通、井の頭通り
	沿道規制型				田園調布街路網、日比谷通り	学園西大通り、学園東大通り、官庁街通り線、 <u>銀座中央通り</u> 、中央通(名寄)、丸の内業務街
仕組み分類	山当て				羅臼町市街、県道富士宮富士公園線	
	アイストップ				外堀通り・迎賓館前、行幸通り	大手前通り
	立体交差				外苑東通り曙橋交差点、千登世橋交差点	
	既存樹活用				ひんぶんのガジュマル、幹線通り、板橋五本けやき、本郷通り(一里塚)、柳坂曾根の榎(ハゼ)並木	
	並 木				桜田通りトチノキ並木、高田屋通、札幌イチョウ並木、国道20号	駒留通り、千歳通り、首都高速道路・辰巳高架区間、ふるさとのケヤキ並木みち、並木通り(飯田)、駅前通(宇和島)、環七通り、橋通り、広小路通、国道10号、国道58号、くずの木通
	花植栽等				環三通り	
	坂 道			<u>函館</u>	<u>北野坂</u>	
水辺の街路		<u>藤ノ木道</u> ・ <u>上賀茂社家町通</u> 、 <u>長町武家屋敷跡(金沢)</u> 、 <u>藍場川</u> 、 <u>賀茂街道</u> 、 <u>阿舎利橋</u>		<u>哲学の道</u>		
施設分類(舗装・照明等)		首里金城町石畳道		<u>オランダ坂周辺の石畳</u> ・ <u>石濱</u> 、 <u>出雲市街地</u> ・ <u>高瀬川</u> 、内堀通り・英国大使館前	<u>皇居周辺街路</u>	
活用分類(休憩・イベント等)				<u>日本大通り</u>	フラワーロード	

## 街路分野規範事例候補リスト

# 事例位置図【街路編】



■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 1 	No. 2 	公園等一体型 ・戦前	1	大通	●所在地：北海道札幌市中央区 ●管理者：札幌市 ●規模：延長1.5km 幅員105m ●年代：明治5(1872)年 ●その他：日本の道100選	明治4年に計画された防火帯を道路として整備。景観的に評価される近代都市の街路。昭和58年に両側20mを道路とし、中央分離帯(幅員65.45m)を公園に編入。季節の花等、札幌の風物詩が繰り広げられ、イベントも行われる。
					●所在地：北海道札幌市北区 ●管理者：札幌市 ●規模：延長0.1km、幅員30m ●年代：大正14(1925)年 ●その他：	旧市役所に突当る北三条通り。木塊(ブナ材)舗装の竣工記念に植樹したイチヨウ並木の内、29本のイチヨウが現存する。環境に対する耐性も強く、寿命の長い樹種だが、良く風雪に耐え、札幌の象徴的な存在となっている。
No. 3 	No. 4 	坂道・江戸時代	3	はこだて 函館(坂道)	●所在地：北海道函館市 ●管理者：函館市 ●規模：— ●年代：江戸～明治時代 ●その他：重伝建地区	北海道を代表する商港として繁栄したこの街には、港から放射状に伸びる街路と個性ある建物が残されている。昭和63年「函館市西部地区歴史的景観条例」が制定、平成元年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。
		並木・戦前	4	高田屋通	●所在地：北海道函館市 ●管理者：北海道 ●規模：延長0.3km、幅員35m ●年代：昭和14(1929)年(拡幅、植栽) ●その他：	昭和9年の大火を機に拡幅整備された道道立待岬函館停車場線。護国神社の参道に当る神社の正面に向かった坂道で、神社の雰囲気に対応しい仕立物のランダム植栽を歩車道境の幅員7mのゆとりのある植樹帯に整備。
No. 5 	No. 6 	花植栽等 ・戦後	5	中央通	●所在地：北海道名寄市 ●管理者：名寄市 ●規模：延長5km、幅員40m(歩車道境植樹帯6m) ●年代：— ●その他：	歩車道境に除雪した雪を堆積するために極めて広い空間が確保されており、雪のない時期にはそれが景観的なゆとりとなる。線形が格調高い直線で、春から夏にかけてシバザクラの花が一面に分離帯を覆う。
		山当て・戦前	6	らうす 羅臼町市街	●所在地：北海道羅臼町 ●管理者：羅臼町 ●規模：延長0.4km ●年代：— ●その他：	若干軸線がずれているが、地域の象徴的な山である羅臼岳に山当てしている。羅臼と宇登呂を結ぶ知床国道が羅臼岳を核として展開する整備がなされていて、その始点に当る羅臼町に相応しい眺望が得られる。
No. 7 	No. 8 	城下町 ・江戸時代	7	寺町通り	●所在地：青森県弘前市 ●管理者：弘前市 ●規模：延長0.6km、幅員15m ●年代：江戸時代 ●その他：	弘前の城下町に配された寺町の一つで、長勝寺に突当る直線の街路。沿道は塔頭が軒を連ねている。歩道に杉並木が整備され、長勝寺に向かうビスタを強調している。並木が若干ランダムであるのは、未舗装時代の名残。
		沿道規制型 ・戦後	8	官庁街通り線	●所在地：青森県十和田市 ●管理者：十和田市 ●規模：延長1km、幅員36m ●年代：昭和43(1968)年(シンボルロード整備) ●その他：日本の道100選	戦後間もなく軍用地が開放された際、官公庁用地として整備されたもので、都市計画法の事務所地区に指定。当初の副道が歩道となり、クロマツとソメイヨシノの4列並木がある。十和田市のシンボルロードとして整備。



■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 9 	No. 10 	シンボルロード ・戦後	9	青葉通	●所在地：宮城県仙台市青葉区 ●管理者：仙台市 ●規模：延長1.5km、幅員36～50m ●年代：昭和26(1951)年 ●その他：	仙台市青葉区の大町交差点から仙台駅前交差点までの市道青葉通線。ケヤキ並木。戦後の都市計画で生まれた道路で、広瀬通り、定禅寺通りと並ぶ仙台市のメインストリート。ケヤキ並木は杜の都仙台のシンボル。
No. 11 	No. 12 	シンボルロード ・戦後	10	定禅寺通	●所在地：宮城県仙台市青葉区 ●管理者：仙台市 ●規模：延長0.7km、幅員46m ●年代：昭和32(1957)年(植栽：昭和33(1958)年) ●その他：日本の道100選	勾当台公園から西公園にいたる緑の回廊。歩道を伴う12m幅員の中央分離帯に2列、歩車道境にそれぞれ1列のケヤキを植栽。キャノピーを構築する並木景観は壮観で、青葉通とともに、仙台の象徴に相応しい街路景観を呈する。
No. 13 	No. 14 	城下町 ・江戸時代以前	11	武家屋敷通り	●所在地：秋田県仙北市(角館) ●管理者：仙北市 ●規模：延長0.7km、幅員11m ●年代：江戸時代 ●その他：重伝建地区、日本の道100選	旧町内には6戸の武家屋敷が残り、特に武家屋敷が密集している町の中心部から国道46号までの県道日三市角館線は「武家屋敷通り」と呼ばれていて、板塀が続く、塀内の庭の植栽が街路を装い、藩政時代の情緒を残している。
No. 15 	No. 16 	沿道規制型 ・戦後	12	学園西大通り	●所在地：茨城県つくば市 ●管理者：茨城県 ●規模：延長20km、幅員35～50m ●年代：昭和52(1977)年 ●その他：	筑波研究学園都市を南北に縦貫する最も主要な幹線道路で、つくば市内から牛久市内へ至る国道408号と県道妻木赤塚線からなる。セットバックは学園西通りと同様に行っていて、ユリノキの2本寄せ植えた並木がある。
		沿道規制型 ・戦後	13	学園東大通り	●所在地：茨城県つくば市 ●管理者：茨城県 ●規模：延長16km、幅員30～50m ●年代：昭和52(1977)年 ●その他：日本の道100選	筑波研究学園都市を南北に縦貫する最も主要な幹線道路の県道土浦筑波線。歩道は現地系に沿っていて、車道と歩道の境界部(法面)でレベル差を調整している。沿道の建築物、境界柵は協定によってセットバックしている。
		シンボルロード ・戦前	14	中央通り	●所在地：栃木県宇都宮市 ●管理者：栃木県 ●規模：延長0.3km、幅員20m ●年代：昭和14(1939)年(植栽) ●その他：	県道宇都宮向田線。県庁をアイストップとし、国道等でも多く用いている栃木県の象徴であるトチノキを植栽。幅員が狭いためアイストップ効果は失われているが、鬱蒼と繁ってシンボルロードとしての印象は強い。
		並木・戦後	15	ふるさとの ケヤキ並木みち	●所在地：群馬県前橋市 ●管理者：群馬県 ●規模：延長0.5km、幅員19m ●年代：昭和25(1950)、42(1967)年(植栽) ●その他：	戦後復興特別区画整理事業により整備された県道前橋停車場線他のケヤキ並木。並木は良好に生育していて、市を代表する並木の1つ。ケヤキは地域性を反映するものであり、住民や駅を利用する多くの人々に親しまれている。
		参道 ・江戸時代以前	16	氷川神社参道	●所在地：埼玉県さいたま市大宮区 ●管理者：さいたま市 ●規模：延長0.9km、幅員25m ●年代：江戸時代 ●その他：市天然記念物(樹木29本のみ)	大宮駅北東にある氷川神社の参道。武蔵国一宮の格に相応しい立派なケヤキ並木が整備されて、町のシンボルとなっている。参道の中程は若干過剰に整備されて往時の面影はないが、神社の近くは旧態を保っている。



■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 17 	No. 18 	舗装・照明等 ・戦後	17	皇居周辺街路	●所在地： 東京都千代田区 ●管理者： 東京国道事務所、東京都、千代田区 ●規模： 延長4km、幅員5.4m(歩道部) ●年代： 平成10(1998)年(最新の改修) ●その他：	旧江戸城の濠に臨む道路で、水が主役の景観を活かすためシンプルな人止柵、照明、歩道舗装の整備を行い、心地良い空間を形成。部分的に残っていた江戸期の遺構(道路残地)を視点場に改変してファニチャー類を整備。
		沿道規制型 ・戦後	18	丸の内業務街	●所在地： 東京都千代田区 ●管理者： 千代田区 ●規模： 延長0.6km、幅員16m ●年代： 明治時代 ●その他：	明治中頃に「一丁ロンドン」として誕生して以来の日本を代表する近代業務街。沿道の高さ制限や、整形的な並木の植栽、歩車道境と民地に植樹帯の設置などを行い、歩道を真っ直ぐに通して、格調のある街路景観を形成。
No. 19 	No. 20 	アイストップ ・戦前	19	ぎょうこう 行幸通り	●所在地： 東京都千代田区 ●管理者： 東京都 ●規模： 延長0.5km、幅員80m ●年代： 大正12(1923)年 ●その他：	市区改正街路を帝都復興事業で延伸。皇居から東京駅に通じる広幅員、直線のフルヴァールで、駅舎がアイストップ。堀を渡る橋はアール・デコ風のグリルをもつ高欄で、橋詰の国道1号との交差点にRC造の四阿がある。
		並木・戦前	20	桜田通り トチノキ並木	●所在地： 東京都千代田区 ●管理者： 関東地方整備局東京国道事務所 ●規模： 延長0.58km、幅員44m ●年代： 明治45(1912)年(トチノキ植栽) ●その他：	国道1号。霞ヶ関に官庁街が整備されて以来のトチノキの並木道。都内最古級の街路樹。樹形が整い、大きくなることから街路樹として用いられるが、期待に達わない生育をして、官庁街に相応しい格調の高さがある。
No. 21 	No. 22 	舗装・照明等 ・戦前	21	内堀通り ・英国大使館前	●所在地： 東京都千代田区 ●管理者： 東京都 ●規模： 延長0.2km、幅員25m ●年代： - ●その他： 日本の道100選	都道廻町竹平線。縦断線形の改良によって車道が下げられたが、英国大使館の要請を受け、歩車道境のソメイシノを残すため、低い石積みによって歩道の原地盤を保全。歩道を広く取り、舗装も根方を十分に避けている。
		沿道規制型 ・戦前	22	日比谷通り	●所在地： 東京都千代田区～港区 ●管理者： 東京都 ●規模： 延長1km、幅員35m ●年代： 明治30年代 ●その他：	国道1号。江戸城の濠に臨み、高さ制限によって庁舎等が整然と立ち並ぶ人工的な空間を直線的なイチヨウ並木が強調。高度地区制限がなされていたが、その解除後、徐々にスカイラインが乱れてきている。
No. 23 	No. 24 	商店街・路地 ・戦後	23	むろまち <small>こうじ</small> 小路	●所在地： 東京都中央区 ●管理者： 中央区 ●規模： 延長0.2km、幅員7m ●年代： 平成18(2006)年(最新の改修) ●その他：	これまでの「室町仲通り」を昭和通りまで延長し、一体的な整備を道路と沿道商店街が行い、あわせて愛称名を「むろまち小路」に変更。石畳舗装とし、電線等の地中化を図っているが、照明の変電施設等、完全ではない。
		沿道規制型 ・戦後	24	ちゅうおう 銀座中央通り	●所在地： 東京都中央区 ●管理者： 関東地方整備局東京国道事務所 ●規模： 延長1km、幅員27m ●年代： 江戸時代 ●その他： 日本の道100選	協定によって沿道の高さ制限をしていて、通りの格調を保つ。かつてシダレヤナギの植栽がシンボルとなっていたが、地下の共同溝整備により控除された。歩道の敷石の一部は都電の廃線敷きの舗石を再利用。

■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 25 	No. 26 	商店街・路地 ・戦前	25	かぐらざか 神楽坂	●所在地：東京都新宿区 ●管理者：新宿区 ●規模：延長0.4km、幅員3m前後 ●年代：江戸～明治時代 ●その他：	坂に特徴づけられる近世以来の街割り骨格を維持し、表情豊かな景観変化を見せる自在な幅員・折れ等を旧態のままとした石畳路地。路地復権の様々な活動が行われ、環境整備、高さ規制を含む地区計画策定の動きもある。
		商店街・路地 ・戦後	26	新宿ゴールデン街	●所在地：東京都新宿区 ●管理者：新宿区 ●規模：幅員3m～4m ●年代：昭和20(1945)年頃 ●その他：	新宿駅東口にあった闇市を撤去した際、当時都電沿いの一角の売春防止法によって寂れたこの土地に移転。1958年、「ゴールデン街」と改名。昔日の街割り、建物がそのまま残り、飲み屋が密集する雑然とした独特の界限。
No. 27 	No. 28 	アイストップ ・戦前	27	外堀通り げいひんかん ・迎賓館前	●所在地：東京都新宿区 ●管理者：東京都 ●規模：延長0.1km、幅員27m(歩車道境植樹帯2.2m) ●年代：大正2(1913)年 ●その他：	都道405号外濠環状線。全線にユリノキが植栽されていて、整然とした街路景観を構築。ことに迎賓館(旧赤坂離宮)前は植樹帯幅員が広く、並木が立派に生長していて、アイストップに迎賓館を据えた見事なビスタを形成。
		立体交差 ・戦前	28	外苑東通り あけぼのばし ・曙橋交差点	●所在地：東京都新宿区 ●管理者：東京都 ●規模：幅員22m ●年代：昭和32(1957)年 ●その他：	都心部ではあまりみられない地形を活用した立体交差。関東大震災後の復興事業として計画された道路の、谷間(靖国通り)で分断されていた二つの地域を結ぶ陸橋。地形に無理なく納めているため、景観的な違和感がない。
No. 29 	No. 30 	パークウェイ型 ・戦前	29	絵画館前通り	●所在地：東京都新宿区、港区 ●管理者：東京都(区) ●規模：延長0.4km、幅員39m ●年代：大正15(1926)年 ●その他：選奨土木遺産(2004)	明治神宮造営に伴い計画された都道四谷角管線。本格的なネオ・バロックの計画。聖徳記念絵画館に向かってピスタを構築する整然とした4列のイチヨウ並木を整備。上下水道、電線、ガスを地中化した模範道路でもある。
		花植栽等 ・戦前	30	かんさん 環三通り	●所在地：東京都文京区 ●管理者：東京都 ●規模：延長0.5km、幅員40m ●年代：昭和20(1945)年頃(サクラ植栽) ●その他：	都道319号の開通区間。この通称で呼ばれている播磨坂区間は戦災復興計画の当初の思想を実現した3列のソメイシノの並木道で、桜の名所。広い中央分離帯は現在遊歩道として整備されており、植栽の良好な基盤が失われた。
No. 31 	No. 32 	参道 ・江戸時代	31	なかみせ 仲見世	●所在地：東京都台東区 ●管理者：台東区 ●規模：延長0.25km、幅員25m ●年代：江戸時代 ●その他：	浅草寺の参道。雷門から宝蔵門までの朱塗りの商店街。明治期の煉瓦造の仲見世は関東大震災により壊滅して、大正14年に現在の鉄筋コンクリート造りになる。歩行者専用道路で、商店への物品搬入は背後の車道から。
		並木 ・戦後	32	首都高速道路 とつみ ・辰巳高架区間	●所在地：東京都江東区 ●管理者：東京都 ●規模：延長0.8km、幅員50m ●年代：昭和55(1980)年 ●その他：	高架構造の首都高速道路を整備するに当り、下部空間全面を一般道の一部に充て、一般道の外側に広い植樹帯を設けている。高架の下部空間を植樹帯とすることが多いが、植栽にとって環境が劣悪で、好ましいものではない。



■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 33 	No. 34 	沿道規制型・戦前	33	田園調布街路網	●所在地：東京都大田区 ●管理者：大田区 ●規模：— ●年代：大正末期 ●その他：—	鉄道敷設に伴う住宅地開発の魁で、ヨーロッパの田園都市構想を实践したものである。坂下に位置する駅を見下ろす放射街路と同心円街路がネットワーク化されていて、沿道は生垣整備、壁面のセットバック等の規制がある。
		並木・戦後	34	こまどめ 駒留通り	●所在地：東京都世田谷区 ●管理者：世田谷区 ●規模：延長0.5km、幅員11m ●年代：— ●その他：—	住宅地の幅員の狭い道路で、歩車道境の植樹帯を無理に広く確保して高木植栽することを避けているために見通しが良い。低木のオオムラサキを一律に植栽して、沿道の住宅地の豊かな植栽を借景としている。
No. 35 	No. 36 	並木・戦後	35	かんんな 環七通り	●所在地：東京都世田谷区 ●管理者：東京都 ●規模：延長1km(植栽帯範囲)、幅員30m ●年代：昭和55(1980)年(改修) ●その他：—	都道環状七号線。極めて交通量の多い道路で、住民の要請を容れ、車線幅を狭くして歩車道境にバファーゾーンを設定。車両の出入りのために植樹帯が分断されることを念頭に入れ、自在に整備できるランダム植栽を採用。
		並木・戦後	36	ちよせ 千歳通り	●所在地：東京都世田谷区 ●管理者：世田谷区 ●規模：延長0.4km、幅員12m ●年代：— ●その他：—	道路幅員が狭く、道路の北側に集中している商店街の明るさと活気を失わないように、道路の南側にケヤキの1列並木を整備。片側並木とすることでその生育が保証されるばかりでなく、剪定等の管理が不要となっている。
No. 37 	No. 38 	公園等一体型 ・戦後	37	いのかしら 井の頭通り	●所在地：東京都渋谷区 ●管理者：東京都 ●規模：延長1km、幅員20m ●年代：昭和39(1964)年 ●その他：—	道路を新設する際に沿道の代々木競技場と代々木公園を一体的に整備。中央分離帯を広く確保し、沿道の切土を緩く造成して、やや奇を衒った傾向はあるが模様植栽を行い、切土の閉鎖感を払拭した快適な走行環境を形成。
		パークウェイ型 ・戦前	38	ないがいろん 内外苑連絡道路	●所在地：東京都渋谷区 ●管理者：東京都(区) ●規模：延長0.8km、幅員36.4m(当初) ●年代：大正9(1920)年 ●その他：—	都道四谷角筈線の明治神宮の内苑と外苑を結ぶ区間で、乗馬道、遊歩道を伴う総幅員120尺(36.4m)の本格的な公園道路(パークウェイ)として計画された。その後、計画が修正され、イチヨウ並木を伴う一般道路となっている。
No. 39 	No. 40 	パークウェイ型 ・戦前	39	表参道	●所在地：東京都渋谷区、港区 ●管理者：東京都(区) ●規模：延長1km、幅員36.5m ●年代：大正9(1920)年 ●その他：—	都道赤坂杉並線のケヤキ並木。明治神宮の造営に伴い表参道、内外苑連絡道路とともに計画されたパークウェイ構想の街路の1つ。剪定を控えたのびやかな枝葉が天空を覆い、緑陰を形成。現在の並木は戦後復興したもの。
		立体交差・戦前	40	明治通り ちよせばし 千登勢橋交差点	●所在地：東京都豊島区 ●管理者：東京都 ●規模：幅員20m ●年代：昭和7(1932)年 ●その他：東京都の著名橋	段丘地形の下を走る明治通りと、段丘の上下を結ぶ目白通りの高低差を利用した立体交差橋。地形を活かしたこうした処理は景観的に違和感がない。道路の立体交差としては日本初のものといわれている。

■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 41 	No. 42 	既存樹活用 ・戦前	41	本郷通り(一里塚)	●所在地：東京都北区 ●管理者：東京都 ●規模：幅員30m ●年代：— ●その他：国史跡(西ヶ原一里塚)	都道本郷赤羽線。道路幅員を確保して一里塚を中央分離帯に保全している。街道は昔の交通事情と大きく異なるため、路線を付替えないと旧態を残せない場合が多いが、貴重な歴史遺産を後世に残すことは重要である。
		既存樹活用 ・戦前	42	板橋五本けやき	●所在地：東京都板橋区 ●管理者：東京都 ●規模：幅員25m ●年代：昭和14(1939)年 ●その他：—	国道254号。拡幅工事の際、当時の飯島村長が屋敷林の一部を残すことを条件に土地を提供。こうして残されたケヤキが「五本けやき」と呼ばれるようになり、今では川越街道上板橋付近のランドマークとなっている。
No. 43 	No. 44 	参道・戦前	43	たまごりょう 多摩御陵線	●所在地：東京都八王子市 ●管理者：東京都 ●規模：延長0.84km、幅員25m ●年代：— ●その他：—	都道187号線。武蔵陵墓地に至る一般道。歩車道境の連続した植樹帯にケヤキ並木を整備。伸びやかに育ってキャノピーを構築している。並木は旧東浅川宮廷駅から甲州街道を越え、多摩御陵まで続いている。
		並木 ・戦前・戦後	44	国道20号	●所在地：東京都八王子付近 ●管理者：関東地方整備局相武国道事務所 ●規模：延長50km、幅員20m ●年代：昭和初期(イチヨウ植栽) ●その他：—	八王子までの区間は平坦立地に当る高規格の道路である。それに相応しい並木として戦前は樹形の整ったイチヨウが選定され、オリンピックを契機に武蔵野を象徴するケヤキが採択されて一部区間をケヤキ並木としている。
No. 45 	No. 46 	参道 ・江戸時代以前	45	ぼばおおもんけやきなみき 馬場大門櫛並木 (小川山府中線)	●所在地：東京都府中市 ●管理者：東京都 ●規模：延長0.7km、幅員30~35m ●年代：江戸時代以前 ●その他：国名勝・天然記念物	大國魂神社の表参道のケヤキ並木。源頼義・義家が前九年の役で東征した際、ケヤキの苗木を寄進したのが起源とされる。甲州街道を挟んだ反対側にも植樹帯があるが、イヌシデ等の鬱蒼とした雑木林になっている。
		休憩・イベント ・戦前	46	日本大通り	●所在地：神奈川県横浜市中区 ●管理者：横浜市 ●規模：延長0.5km、幅員36m ●年代：明治12(1879)年(イチヨウ植栽) ●その他：菊池道路環境賞	R. H. プラントンにより設計された日本で初めての西洋式街路、日本のブルヴァールの原点。最初期のマカダム舗装がなされた。現在は、歩道部において、地元が主体となった取り組みとしてオープンカフェを実施している。
No. 47 	No. 48 	商店街・路地 ・戦後	47	もとまち 元町通り	●所在地：神奈川県横浜市中区 ●管理者：横浜市 ●規模：延長0.6km、幅員11.6m ●年代：平成17(2005)年(最新の改修) ●その他：—	横浜市と地元の協同組合本町SS会の協力により、質の高い整備が実現・維持されている街路。沿道建物のセットバックの完成をみたのが昭和30年で、その後整備を重ね、現在のストリートファニチャーの完成が最新の改修。
		参道 ・江戸時代以前	48	わかみやおおじ 若宮大路	●所在地：神奈川県鎌倉市 ●管理者：神奈川県 ●規模：延長0.5km(中分植栽区間)、幅員25.5m ●年代：寿永元(1182)年 ●その他：日本の道100選	鶴岡八幡宮への参道。県道横浜鎌倉線と鎌倉片瀬江ノ島線。大路の中央に「段葛」と呼ばれる小高い築堤があり、神様が神主等が通る聖なる道とされていた。現在も車道と区別されて桜並木の歩道として活用されている。



■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 49 	No. 50 	水辺の街路 ・江戸時代以前	49	ながまち 長町武家屋敷跡	●所在地：石川県金沢市 ●管理者：金沢市 ●規模：延長0.6km、幅員10m(河川含む) ●年代：江戸時代 ●その他：	武家屋敷の区画の裏に当る部分に大野庄用水が流れていて用水に沿って道路がある。往時のままに、用水の流路は自然に屈曲して道路もそのなりになっていて、沿道の家は旧態を踏襲した補修管理を行っている。
		城下町 ・江戸時代以前	50	東山 東茶屋街 ・旧上之町	●所在地：石川県金沢市 ●管理者：金沢市 ●規模：延長0.14km、幅員5.5m ●年代：江戸時代 ●その他：重伝建地区	加賀藩時代の遊郭が始まり。藩政期の敷地割がそのまま残り、明治初期までに建てられた100軒近くが現存。大半が茶屋様式で、近年までの呼称は東廓。1軒の異質な建築もなく、金沢でも最も色濃く昔の風情が残っている。
No. 51 	No. 52 	並木・戦後	51	並木通り	●所在地：長野県飯田市 ●管理者：飯田市 ●規模：延長1.2km、幅員30m ●年代：昭和28(1953)年(りんご植樹) ●その他：日本の道100選	大火の後の復興土地区画整理事業で防火帯の役割をもたせて整備。飯田を象徴するリンゴの植栽区間は歩車共存道路として過剰に整備してしまっているが、8m幅員の中央分離帯にソメイシノを植栽した区間は風格をもつ。
		宿場等 ・江戸時代以前	52	中山道・奈良井	●所在地：長野県塩尻市 ●管理者：塩尻市 ●規模：延長1km、幅員3.3m~7.0m ●年代：江戸時代 ●その他：重伝建地区 美しい日本の歴史的風土100選	江戸時代の宿場町であり、一般的に宿場町等の多くは一旦寂れたために旧態を留めるが、奈良井は商店街として発展しながらも良く旧態を保っていて、観光により俗化することなく、日常の街並みとしての活気がある。
No. 53 	No. 54 	宿場等 ・江戸時代以前	53	ほっこく 北国街道・海野	●所在地：長野県東御市 ●管理者：東御市 ●規模：延長0.8km、幅員4.5m ●年代：江戸時代 ●その他：重伝建地区、日本の道100選	長野県の上田盆地東南部の宿場。国道が迂回し、全く寂れてしまったために、中央水路を含めて沿道の建築がほとんど現存。近年、観光的に整備されて若干往時の雰囲気は失ったが、比較的良く旧態を留めている。
		宿場等 ・江戸時代以前	54	中山道・妻籠	●所在地：長野県木曾郡南木曾町 ●管理者：木曾町 ●規模：延長0.27km、幅員4m ●年代：江戸時代 ●その他：重伝建地区	近年の観光的な整備で安普請が目立つようになったが、ほとんど放置されていたことが幸いして、中山道・木曾路といえば『妻籠宿』と言われるほど、木曾路11宿の中でも江戸時代の面影を残している宿場と言われる。
No. 55 	No. 56 	宿場等 ・江戸時代以前	55	かみさんの 上三之町	●所在地：岐阜県高山市 ●管理者：高山市 ●規模：延長0.2km、幅員4m ●年代：江戸時代以前 ●その他：重伝建地区	高山は、江戸時代、金森氏により商業経済を重視した城下町として形成され、城を取り囲んで高台を武家屋敷、1段低いところを町人の町とした。この町人町の一部が観光的な変貌を遂げながらも旧態を留めている。
		宿場等 ・江戸時代以前	56	中山道・馬籠	●所在地：岐阜県中津川市 ●管理者：中津川市 ●規模：延長0.6km、幅員4m ●年代：江戸時代 ●その他：	宿場として寂れてしまって放置されてきたが、建屋が確りしていたこともあって、旧態が良く保存されている。妻籠は坂道であるために建屋の維持が難しく、馬籠は平地にあったことが幸いしている。

■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 57 	No. 58 	宿場等 ・江戸時代以前	57	美濃旧市街地	●所在地：岐阜県美濃市 ●管理者：美濃市 ●規模：延長1km、幅員7m ●年代：江戸時代 ●その他：重建地区	卯建を上げた昔の街並が現存している、無電柱化によって景観保全を図っている。往々にして舗装を模様貼り等にしがちだが、最も気にならないアスファルト舗装としている。ただ、歩車道境の切石のマーキングが若干問題。
		歩行者系街路 ・江戸時代	58	いがわ小径	●所在地：岐阜県郡上市 ●管理者：郡上市 ●規模：延長0.12km 幅員1m ●年代：江戸時代 ●その他：-	寛文(1600)年代に防火用水として開削された島谷用水に沿う小径。民地に挟まれた狭い空間ながら、水路にコイやイワナ、アマゴ等を放流し、清潔に保たれている。現存する洗い場2カ所が、コミュニティ空間となっている。
No. 59 	No. 60 	城下町 ・江戸時代	59	鍛冶屋町、職人町	●所在地：岐阜県郡上市 ●管理者：郡上市 ●規模：延長0.2km、幅員5m ●年代：江戸時代 ●その他：-	長良川と吉田川の合流点に位置する郡上八幡は林業の中心地として栄えたが、その後衰退したために旧態を多く留めている。なかでも町外れの長敬寺に突当る鍛冶屋町・職人町は町ぐるみで町景観の保全に取り組んでいる。
		山当て・戦前	60	県道富士宮 富士公園線	●所在地：静岡県富士宮市 ●管理者：静岡県 ●規模：延長1km、幅員15m ●年代：- ●その他：-	富士山への山当て。若干軸線がずれているが、商店街の上に立ちほだかる富士山は山当ての効果十分にある。富士山を祀る浅間神社に近いこともあって富士山が象徴となっている商店街の街路に相応しい対応である。
No. 61 	No. 62 	公園等一体型 ・戦後	61	ひさや久屋大通	●所在地：愛知県名古屋市中区 ●管理者：名古屋市 ●規模：延長1.8km 幅員113.5m ●年代：昭和43(1968)年 ●その他：日本の道100選	多目的な都市機能を包蔵する道路として昭和21年(1946)からの戦災復興事業により建設。通称「100メートル道路」。幅員70mの中央分離帯の久屋大通公園は、最奥部のケヤキの列植区間の他は、やや過剰に整備されている。
		大路・戦後	62	わかみや若宮大通	●所在地：愛知県名古屋市中区～千種区 ●管理者：名古屋市 ●規模：延長4km、幅員100m ●年代：- ●その他：-	戦後の戦災復興事業により、防火帯として建設された100m道路。調節池を収容し、高架道路を通して都市機能の向上を図っている。総合整備事業により、片側4車線を3車線に縮小し、中央分離帯部分を公園化している。
No. 63 	No. 64 	並木・戦後	63	くすの木通	●所在地：愛知県豊橋市 ●管理者：豊橋市 ●規模：延長1.5km、幅員30m(中央分離帯5m) ●年代：昭和23(1948)年(植栽：昭和27(1952)年) ●その他：-	防火帯を兼ねてつくられた豊橋公園にアプローチする市道八町前田町30号線。広い中央分離帯の一行の並木が十分に繁って公園アプローチを印象づける。歩車道境のプラタナス並木等は景観的に不調和。
		並木・戦後	64	ひろこうじ広小路通	●所在地：愛知県豊橋市 ●管理者：豊橋市 ●規模：延長0.5km、幅員20m ●年代：- ●その他：-	市道広小路1号線。商店街に相応しいヤナギ並木。風格をもった老樹が独特の道路の景色をつくっている。ヤナギは亜硫酸ガス等に弱いといわれているが、状況に対する反応が早いだけで、あらゆる環境に強い樹種である。



■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 65 	No. 66 	大路・戦後	65	中央通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：三重県四日市市</li> <li>●管理者：四日市市</li> <li>●規模：延長1km、幅員108m(中央分離帯14m)</li> <li>●年代：—</li> <li>●その他：—</li> </ul>	市道四日市中央線。広い中央分離帯が確保された副道を伴う立派な横断構成で、四日市駅を核とするビスタを構築している。中央分離帯の中央に歩道があり、その両側のクスノキ並木が良好に生育している。
No. 67 	No. 68 	水辺の街路 ・江戸時代以前	67	藤ノ木道・ かみかもしけまち 上賀茂社家町通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：京都府京都市北区</li> <li>●管理者：京都市</li> <li>●規模：延長0.3km(伝建地区)、幅員10m(河川含む)</li> <li>●年代：江戸時代以前</li> <li>●その他：重伝建地区</li> </ul>	道路の片側に比較的川幅のある浅い流れの速い名神川があって、神官等の宅地が沿道に展開。土地利用に変動がなく、緑の豊かな旧態を良く留めている。川と道路の間に柵等がないため納まりの良い景観が保全されている。
No. 69 	No. 70 	水辺の街路 ・戦前	68	哲学の道	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：京都府京都市左京区</li> <li>●管理者：京都市</li> <li>●規模：延長2km、幅員11.5m(河川含む)</li> <li>●年代：明治23(1890)年</li> <li>●その他：日本の道100選</li> </ul>	深く開削された琵琶湖疏水に沿う道路。疏水の岸が道路面より高く、歩道が車道から分離して岸上に設定されている。そのため、車道の影響を受けずに、疏水の流れを眺めながら緑陰の散策を楽しむことができる。
No. 71 	No. 72 	商店街・路地 ・江戸時代以前	69	ほんとうちよう 先斗町	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：京都府京都市中京区</li> <li>●管理者：京都市</li> <li>●規模：延長0.5km、幅員2m</li> <li>●年代：江戸時代</li> <li>●その他：—</li> </ul>	木屋町の東側、三条から四条までの南北に走る石畳の直線的な街路で、紅殻格子の家が両側に立ち並ぶ。東西に五十番まで数える大小の路地が交差し、長い歴史の積み重ねによる奥深さを感じさせる。
		水辺の街路 ・江戸時代以前	70	ぎょうじや あしせり 行者橋(阿舎利橋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：京都府京都市東山区</li> <li>●管理者：京都市</li> <li>●規模：延長12m、幅員0.7m</li> <li>●年代：明治40(1907)年(現在の橋)</li> <li>●その他：—</li> </ul>	白川の細い流れに沿った茶屋街の白川北通はやや整備が過剰だが、白川南通近辺は防護柵はなく、シダレヤナギの植栽があるだけで、歩行者動線に合致した効果的な石橋が架かっていて、かつての街路の面影が濃い。
		歩行者系 街路 ・明治～大正	71	はなみこうじ 花見小路	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：京都府京都市東山区</li> <li>●管理者：京都市</li> <li>●規模：延長0.4km、幅員4m(四条通以南)</li> <li>●年代：明治～大正時代</li> <li>●その他：—</li> </ul>	京都の祇園南界隈は、明治の末から大正にかけて築造されたといわれる2階建てのお茶屋建物が並ぶ、風情ある街路景観が有名である。この景観を保全するために地元で協議会を設立し、既往の景観資源を守っている。
		商店街・路地 ・江戸時代以前	72	さんねい 産寧坂	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：京都府京都市東山区</li> <li>●管理者：京都市</li> <li>●規模：延長0.3km、幅員4m</li> <li>●年代：江戸時代以前</li> <li>●その他：重伝建地区</li> </ul>	清水寺の門前町として発展した地区。「むしこ造り」の町家に住宅・社寺が混在し、京都の典型的な歴史的風致を形成している。多分に観光的に整備されているが、石畳の舗装等は旧態のまま、良くその風致を保全。



■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 73 	No. 74 	大路・戦前	73	みどうすじ 御堂筋	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：大阪府大阪市北区～中央区</li> <li>●管理者：近畿地方整備局大阪国道事務所</li> <li>●規模：延長4km、幅員44m</li> <li>●年代：昭和12(1937)年</li> <li>●その他：選奨土木遺産(2005) 日本の道100選</li> </ul>	国道25号と175号からなる第一次都市計画事業で造られた大阪の近代的な幹線道路。沿道の高さの揃った調和の取れた街並みを形成している。現在は一方通行で、広い側方分離帯と歩車道境にイチヨウの4列並木が良好に生育。
No. 75 	No. 76 	商店街・路地 ・江戸時代以前	74	ほうぜんじ 法善寺横丁	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：大阪府大阪市中央区</li> <li>●管理者：大阪市</li> <li>●規模：延長0.08m、幅員2.7m</li> <li>●年代：江戸時代</li> <li>●その他：</li> </ul>	法善寺境内の露店から発展した路地。明治～昭和初期にかけては寄席が流行り、界隈が繁盛。太平洋戦争の空襲で焼失、戦後は飲食店が次々と開店、現在に至っている。最近の火災で焼失したが、再度復興。
No. 77 	No. 78 	坂道・江戸～明治	75	きたのさか 北野坂	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：兵庫県神戸市中央区</li> <li>●管理者：神戸市</li> <li>●規模：延長0.3km、幅員15m</li> <li>●年代：江戸～明治時代</li> <li>●その他：重伝建地区</li> </ul>	昭和55年、北野は重要伝統的建造物群保存地区に選定。風見鶏の家(旧トーマス邸)、萌黄の館(旧シャープ邸)等の国指定重要文化財を中心に、数多くの洋風建築やこれに調和した店舗が独特の界隈文化を形成している。
		休憩・イベント ・戦後	76	フラワーロード	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：兵庫県神戸市中央区</li> <li>●管理者：兵庫県</li> <li>●規模：延長0.6km、幅員50m(歩道17+6.5m)</li> <li>●年代：—</li> <li>●その他：</li> </ul>	神戸の三宮駅から港に出る県道新神戸停車場線。神戸を象徴する「花と彫刻の道」。市役所と公園に接する西側の歩道を広くし、公園のように設え、イベント対応のために中央分離帯の植樹は可動式のポットとしている。
No. 79 	No. 80 	アイストップ ・戦後	77	大手前通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：兵庫県姫路市</li> <li>●管理者：姫路市</li> <li>●規模：延長1km、幅員50m</li> <li>●年代：昭和30(1955)・再整備：昭和62(1987)年</li> <li>●その他：日本の道100選</li> </ul>	戦後の市街地復興に際して整備した姫路駅から国宝・世界遺産である姫路城の大手門まで一直線に伸びる道路。当初、副道を伴う道路で、側方分離帯と歩車道境に4列の並木が植栽されたが、当該部分を歩道として再整備。
		公園等一体型 ・戦前	78	かしはら 檀原神宮参道	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：奈良県橿原市</li> <li>●管理者：奈良県</li> <li>●規模：延長4km、幅員16m</li> <li>●年代：昭和15(1940)年</li> <li>●その他：日本の道100選 日本の桜名所100選</li> </ul>	県道畷傍御稜前停車場四条線と檀原神宮公苑線。道路自体は5m弱のゆとりのある歩道に植樹帯を設けず、シンプルに仕上げている。道路と一体的に整備した神宮の森の緑に覆われていて、極めて快適な環境となっている。
No. 79 	No. 80 	歩行者系 街路 ・江戸時代以前	79	吉野山参道	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：奈良県吉野郡吉野町</li> <li>●管理者：奈良県</li> <li>●規模：延長1km、幅員4m</li> <li>●年代：江戸時代以前</li> <li>●その他：</li> </ul>	吉野山は院政時代の昔に全盛を極め、以降物見遊山の指向が強まり、繁盛して今に往時の様相を留めている。参道は胃腸薬や葛を商う店が軒を連ね、日除け、雨除けの可動式の布シートが上空を覆う特異な界隈を形成。
		舗装・照明等 ・戦前	80	いずも 出雲市街地・高瀬川	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：島根県出雲市</li> <li>●管理者：出雲市</li> <li>●規模：延長1.5km、幅員14m(将来計画：24.5m)</li> <li>●年代：江戸時代</li> <li>●その他：</li> </ul>	元々高瀬川の両側に道路があり、昔からの街並みが点在する片側の道路をそのままに地先道路として残し、反対側の道路を拡幅して供用。さらに拡幅の計画がある。水路際に防護柵を設けず、水路と街並み景観を保全。

■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 81 	No. 82 	参道 ・江戸時代以前	81	しんもん 神門通り	●所在地： 島根県出雲市 ●管理者： 島根県 ●規模： 延長0.57km、幅員11.5m ●年代： 大正3(1914)年 ●その他：	県道出雲大社線の旧出雲大社駅と出雲大社を結ぶ出雲大社の参道。マツ並木は大正時代、邑南町(旧瑞穂町)出身の小林徳一郎氏が神門通りの大鳥居とともに寄進されたもの。植え樹が窮屈だが、旧態の景観性を維持。
No. 83 	No. 84 				城下町 ・江戸時代以前	82
		宿場等 ・江戸時代以前	83	倉敷川畔	●所在地： 岡山県倉敷市 ●管理者： 倉敷市 ●規模： 延長0.5km、幅員26m(河川含む) ●年代： 江戸時代 ●その他： 重伝建地区	倉敷川を挟む市道新川藤戸線と市道中央4号線・本町5号線。舟運によって繁栄した河岸で、塗家造の重厚な意匠の町家が並び、倉敷川の2段に設えられた護岸の石組みとともに洗練された美しい景観が良く保存されている。
No. 85 	No. 86 	大路・戦後	84	平和大通り	●所在地： 広島県広島市中区～西区 ●管理者： 広島市 ●規模： 延長4km、幅員100m ●年代： 昭和40(1965)年 ●その他： 日本の道100選	「100m道路」の愛称で親しまれている市道比治山庚午線。戦時中、空襲に備えて幅100mの防火地帯を設けようとして整備が進められた。幅員28.5mの側方分離帯にはやや雑然とクスノキやケヤキ等が繁り、彫刻や慰霊碑が並ぶ。
		シンボルロード ・戦後	85	パークロード	●所在地： 山口県山口市 ●管理者： 山口県 ●規模： 延長0.8km、幅員40m ●年代： 昭和55(1980)年 ●その他： 日本の道100選	県庁前から商店街に向け、ゆるやかなカーブを描く住宅地内の県道203号厳島早間田線。道路のケヤキ並木と散歩道として整備された歩道、沿道の公園、建物とが一体となってゆとりのある街並みを造りだしている。
No. 87 	No. 88 	水辺の街路 ・江戸時代以前	86	はぎ 萩市街地・藍場川	●所在地： 山口県萩市 ●管理者： 萩市 ●規模： 延長0.5km、幅員8m(河川含む) ●年代： 江戸時代 ●その他：	日本海から阿武川に入った船の荷を小船に積替えて城下に送った流路が藍場川で、舟運に支障のないように造られた太鼓橋は残されていないが、防護柵を設置せず、沿道のたたずまいを含めて旧態が保全されている。
		城下町 ・江戸時代以前	87	かいま 鍵曲がり	●所在地： 山口県萩市 ●管理者： 萩市 ●規模： 幅員4～6m ●年代： 江戸時代 ●その他： 重伝建地区	鍵曲がり(かいまがり)と呼ばれるクランク状の路地。外敵の侵入や攻撃に備えるための工夫で、更に見通しを妨げるために道の両側を高い塀で囲んでいる。舗装を砂利敷きに留めて往時の状態を保っている。
		城下町 ・江戸時代以前	88	堀内地区 ・江戸屋横丁	●所在地： 山口県萩市 ●管理者： 萩市 ●規模： 延長0.2km、幅員4.5m ●年代： 江戸時代 ●その他： 重伝建地区	ピンツケ商の江戸屋があったという通り。木戸孝充や青木周弼の旧宅、金比羅社等があり、白壁と黒板塀のおりなす風情は別格。旧来に倣って溝蓋を取除き、標識を設置せず、舗装もシンプルにして城下町の面影を留める。



■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 89 	No. 90 	歩行者系街路 ・戦前・戦後	89	おぎじま 男木島集落の 石垣路地	●所在地：香川県高松市 ●管理者：高松市 ●規模：延長0.3km、幅員1~2m ●年代：江戸時代 ●その他：	島の急斜面に展開する路地。雑壇状に石垣を用いて造成した平場の海側は住宅地に充てられ、その背後に細い道路が通されている。海側は軒を目の下に見て、山側は石垣(オーテ)が迫る独特な漁師集落の風情が残されている。
No. 91 	No. 92 				歩行者系街路	90
		大路・戦後	91	いまばり 今治港線	●所在地：愛媛県今治市 ●管理者：愛媛県 ●規模：延長0.6km、幅員36m ●年代：— ●その他：	戦災復興道路。側方分離帯に植えられたクスノキが枝を広げ、道路の格調を高めている。市役所前の国道317号との交差点にロータリーが象徴的に整備されていて、当時の道路整備の形態が保全されている。
大路・戦後	92				いまばり 今治停車場線	●所在地：愛媛県今治市 ●管理者：愛媛県 ●規模：延長0.4km、幅員36m ●年代：— ●その他：
No. 93 	No. 94 	並木・戦後	93	駅前通	●所在地：愛媛県宇和島市 ●管理者：愛媛県 ●規模：延長0.3km、幅員35m ●年代：— ●その他：	県道宇和島停車場線。ワシントンヤシの並木。駅前という地域の象徴性をもつ道路に植えられた樹高の高いヤシは、幅員が狭いこともあって高さが強調され、暖かい土地柄をあらわしながら、整然とした格調をもつ。
					既存樹活用 ・戦前	94
No. 95 	No. 96 	城下町 ・江戸時代	95	杉の馬場	●所在地：福岡県甘木市 ●管理者：甘木市 ●規模：延長0.3km 幅員12m ●年代：江戸時代 ●その他：	江戸時代の秋月は黒田藩の支藩として安永4年(1775)城下町が形成。城館に向かう骨格街路が「杉の馬場」である。明治38(1905)年に桜並木が整備され、道路舗装は中央の4m余りに限られているため、並木は壮健である。
					宿場等 ・江戸時代以前	96

■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 97 	No. 98 	舗装・照明等 ・戦前	97	オランダ坂周辺の 石畳、石溝	●所在地：長崎県長崎市 ●管理者：長崎市 ●規模：延長0.7km(オランダ坂)、幅員4m ●年代：明治10(1877)年頃 ●その他：重伝建地区、日本の道100選	東山手(外国人居留地)を中心にいくつかの石畳の坂道が現存。深い側溝と斜めに敷かれた切石が特徴。拡幅や敷き直し等改変点が多いが、周辺環境も合わせて保存状態が良く、全体の雰囲気には長崎らしさが色濃く漂う。
		城下町 ・江戸時代以前	98	したんちよう 下ノ丁	●所在地：長崎県島原市 ●管理者：島原市 ●規模：延長0.14km、幅員5m ●年代：江戸時代 ●その他：	武家屋敷跡が江戸時代さながらに残されている。町筋の中央の水路は北西の「熊野神社」を水源とし、飲料水として使われ、水奉行を置き、厳重に管理されていた。現在は溝幅を狭めて住民の自動車走行を可能にしている。
No. 99 	No. 100 	大路・戦後	99	40M道路	●所在地：大分県大分市 ●管理者：大分県 ●規模：延長14km、幅員40m ●年代：— ●その他：	住宅地と工場地帯を分ける主要地方道大分大分港線。土地利用の緩衝のための緑地の重要性を考え、広い中央分離帯を確保。沿道の工場敷地内の豊富な緑と相まって、ゆとりのある空間に緑の豊かさが感じられる。
		既存樹活用 ・戦前	100	幹線通り	●所在地：大分県佐伯市 ●管理者：大分県 ●規模：幅員15m ●年代：— ●その他：	国道388号。幹周り7mにも及ぶクスノキの大き木が交差点のアイランドに1本保存されている。交通量が多くないこともあって、交通の妨げとなっておらず、樹勢も旺盛で、格好な街角のシンボルとなっている。
No. 101 	No. 102 	城下町 ・江戸時代	101	すや 酢屋の坂、しおや 志保屋の坂	●所在地：大分県杵築市 ●管理者：杵築市 ●規模：延長0.15km、幅員5m前後 ●年代：江戸時代 ●その他：	杵築の城下町は海に突出した城から西に伸びる町屋の谷を挟んで南北の台地上に武家屋敷が展開していて、南北を連絡するために坂道が設けられている。騎馬の往来を考えて、幅員は広く、斜路に近い石段となっている。
		城下町 ・江戸時代以前	102	かろうちよう 家老丁・ 武家屋敷通り	●所在地：大分県杵築市 ●管理者：杵築市 ●規模：延長0.2km、幅員5.6m ●年代：江戸時代 ●その他：	沿道の街並みの景観を最大限に活用するため、排水溝は従来のままにし、電柱や電線は完全に排除。標識等も最小限の設置。路面表示等も行っていないが、路面は旧来の裸地の土色を再現していたが、現在はアスファルト舗装。
No. 103 	No. 104 	シンボルロード ・戦前	103	県庁前通り	●所在地：宮崎県宮崎市 ●管理者：宮崎県 ●規模：延長0.8km、幅員30m ●年代：昭和8(1933)年 ●その他：	県道宮崎佐土原線。旧知事公舎等から28本の樹齢100年以上のクスノキを移植した県内最古の街路樹が健在。道路をすっかり覆い尽くして、他に比類ない風格ある県庁前に相応しい街路景観を形成している。
		シンボルロード ・戦前	104	駅前通り	●所在地：宮崎県宮崎市 ●管理者：宮崎県 ●規模：延長0.6km、幅員40m ●年代：大正2(1923)年頃 ●その他：	県道宮崎停車場線。駅舎に突当たる道路で、側方分離帯と歩車道境に4列のクスノキが植栽されている。他の主要な道路は観光的にヤシ類が植栽されていて、県庁前通りと一対で、地域住民にとっての象徴となっている。



■【街路分野】規範事例候補リスト

主な写真		分類	No.	名称	概要・沿革	特徴
No. 105 	No. 106 	並木・戦後	105	橋通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：宮崎県宮崎市</li> <li>●管理者：宮崎県</li> <li>●規模：延長1.8km、幅員36m</li> <li>●年代：昭和42(1967)年(ワシントンヤシ植栽)</li> <li>●その他：</li> </ul>	国道220号。宮崎はかつて南国であることをアピールしてきた。その一環として観光地の道路をヤシ類で整備。市街地の幹線道路もその例に漏れず、樹高があって格調の高いワシントンヤシの並木としている。
		大路・戦後	106	パース通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：鹿児島県鹿児島市</li> <li>●管理者：鹿児島市</li> <li>●規模：延長2km、幅員38m</li> <li>●年代：-</li> <li>●その他：</li> </ul>	戦災復興計画のクスノキ並木の広路。道路の幅員に相応しい大木となる樹種を選定。地域の高規格街路のほとんどがクスノキ並木であり、それによって地域性が強調され、鹿児島市のアイデンティティーを確立している。
No. 107 	No. 108 	城下町・江戸時代以前	107	武家屋敷通り	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：鹿児島県知覧町</li> <li>●管理者：知覧町</li> <li>●規模：延長0.8km、幅員4m</li> <li>●年代：江戸時代</li> <li>●その他：重伝建地区、日本の道100選</li> </ul>	藩政時代の鹿児島街道に当たっている町道武家屋敷通り線。沿道の武家屋敷の石垣や特徴的な生け垣を借景とするため、道路自体をシンプルに、路面は景観的に調和する色あいのシラスを模した特殊舗装。電柱は民地に移設。
		舗装・照明等・江戸時代以前	108	しゅりきんじょう 首里金城町石畳道	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：沖縄県那覇市</li> <li>●管理者：那覇市</li> <li>●規模：延長0.08km、幅員4m</li> <li>●年代：大永2(1522)年</li> <li>●その他：県史跡・名勝、日本の道100選</li> </ul>	尚真王の時代に沖縄南部に通じる道路として造られた琉球石灰岩の石畳の道。現存するのはわずかだが、道の両脇には古い石垣や沖縄独特の赤瓦の家が並ぶ。傾斜のきつい坂道で開放的な明るい眺めが得られる。
No. 109 	No. 110 	既存樹活用・戦前	109	ひんぷんのガジュマル	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：沖縄県名護市</li> <li>●管理者：沖縄県</li> <li>●規模：交差点部幅員25m</li> <li>●年代：-</li> <li>●その他：県天然記念物(ガジュマル)</li> </ul>	県道84号線のロータリーにあるガジュマルの大木。江戸時代に植えられたものといわれ、幹周りが10m以上もある。道路の拡幅に伴って道路敷地に取込まれ、道路の正面に当たっているため、町の象徴的な存在となっている。
		並木・戦後	110	国道58号	<ul style="list-style-type: none"> <li>●所在地：沖縄県名護市</li> <li>●管理者：沖縄総合事務局北部国道事務所</li> <li>●規模：延長1km、幅員30m</li> <li>●年代：-</li> <li>●その他：</li> </ul>	沖縄では並木にヤシ類を用いることが多いが、ヤシは広範囲の地域で植栽されていて、沖縄を意識させるものではない。ここでは民家の生垣に用いられていたフクギを移植して並木とし、本来の沖縄らしさを演出している。
※特記無き写真は、大日本コンサルタント株式会社及び松崎喬が撮影					●規模：特徴に示した内容に該当する概ねの範囲を表記 特定できないものは「-」で表記 ●年代：特定できないものは「-」で表記 ●その他：受賞歴や文化財指定等について表記 土木学会デザイン賞・デザイン賞…土木学会景観・デザイン賞 選奨土木遺産…土木学会選奨土木遺産 菊池道路環境賞…(社)道路緑化保全協会菊池道路環境賞	
注記)						

## ●街路分野における規範事例選定の考え方

### (1) 事例選定のポイント

#### ① 選定対象

- ・前項で抽出した規範候補（110 事例）から選定した。

#### ② 選定のポイント

部会において協議した結果を踏まえ、規範事例の選定に関するポイントを以下に整理した。

##### 【ポイント1 歴史・風土の継承】

- ・歴史や風土に根ざした「生活の形」として成立した城下町や宿場等の街路空間については、現在もその価値を損なうことなく、歴史的な遺産として見直されるべきものである。
- ・古くからある良好な景観を維持する歴史的な街路について、その成立に関する背景や景観を維持するための工夫などについて整理し、広く伝えることは有意義なことである。

##### 【ポイント2 沿道との良好な関係の形成】

- ・街路の良さは、沿道のまちなみや植栽、水辺などとの良好な関係により成り立つものである。
- ・街路の成立過程において、沿道との良好な関係を築くため、どのようなプロセスにより整備され、どのように維持しているのか、その手法や取り組みについて良好な事例を押さえておくことが重要である。
- ・特に、沿道の緑や広がりをもった水面を街路景観に取り込むことは、人為的な都市の中においてゆとりや潤いを与えるものであり、良好な街路景観を形成する上で重要な要素である。

##### 【ポイント3 オープンスペースとしての街路空間の活用】

- ・イベントの開催や市民の憩いの場など、街路空間を地域にとってのオープンスペースとして様々な活用がなされていることに着目し、その好事例を取り上げ、地域の活性化や賑わいづくりに寄与する良好な空間としての街路について紹介する。

##### 【ポイント4 「大通り」～「路地」までを網羅】

- ・広幅員のいわゆる「大通り・目抜き通り」と呼ばれる街路から、ヒューマンスケールの路地・界限等まで、幅広く事例として取り上げる。
- ・「大通り・目抜き通り」については、街の骨格として周囲とどういう関係を作ろうとしているのか、という観点でとらえる。
- ・ヒューマンスケールの街路としては、路地・界限・横丁・商店街・ショッピングモールなど、歩行者にとっての街路としてとらえる。

上記のポイントを踏まえ、以下の項目に着目した規範事例を選定した。

- 1) “歴史・風土”的な空間を保全活用した街路
- 2) “目抜き通り・シンボルロード”に見る、沿道との良好な関係を構築する大通り
- 3) 心地よいスケール感を持った“路地・界限”
- 4) 広がりをもった水面を取り込んだ“水辺の街路”

## (2) 事例選定の考え方

街路のデザインをおこなうとき、直接の操作対象すなわち設計要素となるのは、道路としての路面と、路面上に現れる付随設備である。平面・縦断線形、幅員と横断面構成、舗装、縁石、排水設備、植栽、ストリートファニチュア、照明や信号、標識などである。しかし、これら諸要素がよく設計されていれば、よい街路ができあがるというわけにはいかない。それだけでは道路のデザインと変わらない。

なによりも、街路のデザインとは都市空間のデザインである、という前提に立つ必要がある。単なる車両や歩行者の移動路ではない。街並みを眺めながら散歩をしたり、買いものや食事を楽しんだり、恋人とデートをしたり、仕事で外回りの途中に一息いれたり、あるいは祭りのときには山車が通って人々が踊って歌う空間である。つまり街路は第一に都市生活の舞台であり、それゆえに、たとえばパリといえばシャンゼリゼ通り、バルセロナといえばランブラス通り、という具合に、その都市を代表するイメージを担うのである。街路とはそういう空間であることを銘記したうえで、そのデザインを検討しなければならない。

したがって、どのような街路デザインが規範となるかを考える際、以下の二点がポイントとなるであろう。

第一は、さまざまな都市的アクティビティの舞台としての、空間の総合的な質が確保されているか否かである。路面および付属物のデザインの機能性と洗練はもちろんであるが、沿道の建築物の形態と用途（とくに低層部）、建物に付随する広告や看板、隣接して流れる川や運河、背景となる周囲の山並みなど、街路空間を構成する路面以外の要素（むしろ、街路空間の主要素であるといってもよい）と一体となった空間を形成していることが理想である。したがって、舗装やストリートファニチュアなどの具体物

のデザインだけでなく、沿道の建物や看板などのコントロール、街路景を維持していくための運営システムなども、広く街路デザインの一部として考えられねばならない。

第二は、その街路の格に応じたデザインがなされているかどうかである。都市空間としての街路は、その都市を代表するイメージシンボル、境界の形成、ショッピングストリート、歴史的町並み、水辺の散歩道や生活路地など、その形態や場所の性格に応じて、さまざまな役割を担っている。したがって、都市のコンテクストによって定まるその街路の格に応じた、適切なデザインが施されていることが重要となる。

以上を念頭において、規範事例の選定をおこなった。もちろん、ひとつひとつが上記二点の要件を完全に満たしているわけではないが、いずれも、その街路が担うべき都市文脈上の機能と空間のデザインとが、齟齬なく一致していることは共通している。そのうえで、街路空間の構成手法がバラエティに富むように、かつ各手法の代表選手と見なせる事例を選定した。

知覧の武家屋敷通りと旧中山道奈良井宿は、歴史的町並みを主役とした街路デザインの代表である。知覧の場合は石垣、生垣、旧武家屋敷の庭園の緑と背景の山並みが主役、奈良井宿の場合は街道沿いの近世宿場町の建築群が主役、と互いに性格は異なるが、ともに沿道住民が日常的生活を営みながら維持されていること、街路自体は脇役に徹してあっさりとしてデザインされていることが、共通したポイントである。

都市のシンボルとなる広幅員街路としては、銀座中央通り、御堂筋、青葉通・定禅寺通、表参道と絵画館前の銀杏並木、札幌大通公園を選定した。街路樹を有さない銀座中央通りは、建築群によって都市を代表する街並を形成している目抜き通りとして、日本では希有の存在である。御堂筋は副道を有する四列植栽の横断面構成と建物の高さ規制によって、また青葉通



と定禅寺通は緑の屋根を形成するほどの豊かなケヤキ並木によって、それぞれ大阪、仙台を象徴する都市空間を形成している。明治神宮外苑絵画館前の銀杏並木はヴィスタ・アイストップ型街路の代表、また札幌大通公園は街路と都市公園を一体化することによって都市軸をつくりだした事例である。都市のシンボルとしての街路空間を構成する手法ができるかぎり多様になるように、選定を行った。

さらに、まちづくりと一体となった街路デザインとして横浜元町のショッピングモールを、水景を主役にしてシンプルなデザインに徹した水辺街路の皇居周辺街路を加えた。また「水辺の街路」「坂道」「歩行者系街路」「オープンカフェ」をコラムとして付加し、都市空間としての街路デザインに必要な項目を補足した。

土木デザイン集成編集小委員会 街路・公園部会長  
東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻  
中井 祐

【街路分野】規範事例一覧

区分	事例対象	テーマ（副題）	特徴
歴史・風土	伝統的建築群地区指定（環境物件）	知覧武家屋敷通り（鹿児島県）	武家屋敷の特徴的な雰囲気をも維持・継承している街路 <ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内への見通しや進入を防ぐ目的でつくられた石垣、生垣が街路からの景観を特徴的、魅力的なものにしている。</li> <li>重要伝統的建造物群保存地区の指定により、美しく保存・管理されている。</li> </ul>
	伝統的建築群地区指定（建物）	中山道・奈良井宿（長野県）	近世の街並みを日常的な生活の中で維持・継承している街路 <ul style="list-style-type: none"> <li>重要伝統的建造物群保存地区として、幕末・明治期の街並みが保存・管理されている。</li> <li>観光地化するのではなく、日常生活の中で保存活動が行われている。</li> </ul>
目抜き通り・シンボルロード	自主ルール（形態規制）	銀座中央通り（東京都）	自主ルールにより格調を高めている先進的な近代街路 <ul style="list-style-type: none"> <li>明治6年の煉瓦街建設に始まり、日本を代表する先進的な街路の役割を果たして来た。</li> <li>「銀座ルール」と呼ばれる自主的な規制を定め、壁面位置の制限や建築物の高さ制限などを設定し、街並みの質を高めている。</li> </ul>
	建築指導（形態規制）	御堂筋（大阪府）	先見的思想により都市の骨格を形成した街路 <ul style="list-style-type: none"> <li>幅員44mで大阪のキタとミナミを貫いた近代的な幹線街路であり、沿道建物高さの揃った調和の取れた格調ある街並みを形成してきた。</li> <li>受益者負担制度による事業費の一部の地元負担や地下鉄建設を同時に行うなど、先進的な手法により事業を実施している。</li> </ul>
	景観形成地区指定等（景観保全）	青葉通・定禅寺通（宮城県）	緑豊かな並木により都市のイメージを象徴したブロムナード <ul style="list-style-type: none"> <li>戦災復興の際に確保された広い幅員を生かし、「杜の都 仙台」のイメージを具現化した緑豊かで象徴的な街路景観を呈している。</li> <li>ゆとりある空間で大きく成長したケヤキ並木が緑のキャノピーを形成し、うるおいある心地よい空間を提供している。</li> </ul>
	ヨーロッパの都市デザイン手法	絵画館前通り・表参道・内外苑連絡道路（東京都）	欧州の都市デザインを取入れた近代的都市空間 <ul style="list-style-type: none"> <li>明治神宮内外苑の造営に伴い計画された近代都市を象徴する街路であり、欧州の都市デザインに則った街路景観を形成している。</li> <li>神宮内外苑のアプローチ、ネットワークという位置づけの中で、並木により格調高い空間を創出している。</li> </ul>
	街路と公園の融合	大通・大通公園（北海道）	街路と公園を融合した都市の中心となるオープンスペース <ul style="list-style-type: none"> <li>大火の延焼を防ぐための「火防線」であった空間を活用し、街路と公園が一体となって街の軸となるオープンスペースを創出している。</li> <li>都市の拠点となる大空間を、人を集める装置として積極的に活用しており、「雪祭り」「ビール祭り」などのイベント会場としている。</li> </ul>
界限・路地	セットバックとデザインコントロール等	元町通り（神奈川県）	自主的に維持・更新を行っているショッピングストリート <ul style="list-style-type: none"> <li>1階のファサードを軒下1.8mまでセットバックするという、全国に先駆けた手法により、ゆとりある歩行者空間を確保した。</li> <li>行政と地元の協力により、質の高い整備が実現・維持されており、こうした取り組みが周辺の街路整備にも波及している。</li> </ul>
	坂道	函館 ほか	勾配の変化がもたらす情緒ある空間 <ul style="list-style-type: none"> <li>土地の起伏に応じ、独特の界限文化や風情を形成する坂道に関する事例。</li> <li>対象事例：神戸北野坂、産寧坂、函館弥生坂、オランダ坂 等</li> </ul>
	歩行者系街路	神楽坂 ほか	賑わいや楽しさを演出するヒューマンスケールの空間 <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史や人の生活に根ざして形成されてきた歩行者系街路の事例。</li> <li>対象事例：神楽坂、祇園南界限、法善寺横丁</li> </ul>
	オープンカフェ	日本大通り ほか	街の活性化を図る身近で効果的なオープンスペース <ul style="list-style-type: none"> <li>街路空間の活用方策として、まちに賑わいをもたらすオープンカフェの実施事例。</li> <li>対象事例：日本大通り 他</li> </ul>
水辺の街路	空間配分とデザイン処理	皇居周辺街路（東京都）	印象深い歴史的な水景を取込んでデザインした歩道 <ul style="list-style-type: none"> <li>日本を代表する歴史的景観資源のお濠、石垣などと沿道との関わりに配慮した歩行空間を再整備した。</li> </ul>
	水辺の街路	下ノ丁 ほか	潤いと親しみを感じさせる水景と一体化した空間 <ul style="list-style-type: none"> <li>開放感のあるな水面を取り込み、ゆとりや潤いのある街路空間を形成している事例。</li> <li>対象事例：賀茂街道、上賀茂社家町、藍場川、阿舍利橋、下ノ丁、北国街道（海野宿） 他</li> </ul>